

日台交流日録 (3)

〔平成16年6月30日～8月25日〕

これからの日本と台湾が見えてくる

6・30 日本球界からも五輪メンバー

台湾野球協会はアテネ五輪の代表メンバーを発表。日本球界からは西武の張誌家投手、中日の陳偉殷投手、阪神の林威助外野手が代表入り。投手コーチには元日本ハムの酒井光次郎氏。

7・1 退任の駐沖代表が感謝の夕べ

中琉文化経済協会沖縄事務所の黄輝慶代表は退任に伴い「感謝の夕べ」を開催。県内政財界関係者ら約五百人を招いた。

7・3 日台兒童の親善訪問交流

彰化県の湖東小など三小学校の児童十八人と保護者が、福岡県宗像市の赤間小を親善訪問。双方は平成四年以来、一年置きに相互訪問を行い、友情を深めている。

7・5 親善囲碁大会は台湾に軍配

第三十一回日華親善囲碁大会（主催・日本アジア航空、他）が台北市で開かれ、プロ棋士や愛好家が腕を競い合った。対戦成績は二十二勝―二十一勝で台湾側に軍配。

7・6 許代表が着任記者会見

五日に着任した許世楷駐日代表が代表処公邸で初の記者会見。「台湾が独立した国家であることを、日本が認めざるを得ないような状況を作りたい」との意気込みを語った。

7・6 山形の酒が台湾進出

山形県酒造組合は、県産高級酒の対台湾輸出を決めた。「国内の不調を取り戻すつもりはない。日本文化を海外に伝えたい」という。同組合は六月に台北市の食品見本市に出展、好感触を得ていた。日本酒輸入額で台湾は米国に次いで第二位だが、高級酒は多くない。

7・6 ハンセン病療養施設の跡地に

台湾での報道によれば、台北県新莊市の地下鉄車両基地の建設予定地は日本時代の療養施設の跡地だが、そこで当時の石碑が発見された。同院はかつて唯一のハンセン病療養施設で、同県は現地で記念館開設も検討中。

7・7 鹿児島、高雄の大学が交流協定

鹿児島国際大と高雄市の高雄応用科技大が、鹿児島市内で学術交流協定の調印式。留学生、教職員の交換、共同研究などを行う。

7・9 話題の武士道映画が封切り

三月の台北市映画祭で大好評だった映画

「たそがれ清兵衛」（山田洋二監督）が台湾で封切り。作品で描かれる武士道はメディアでも話題に。主演の真田広之さんも大人気。

7・12 中琉文化協の陳新代表が就任

台湾の沖縄駐在機関、中琉文化経済協会沖縄事務所の新代表に、陳桂宏氏が就任した。

7・17 寒雲さんに感謝のディナーショー

昨年 of S A R S 騒動で経営危機に陥った香川県土庄町の小豆島グランドホテル水明は、当時、ショーで支援してくれた在日台湾人歌手寒雲さんに感謝のディナーショーを開催。

7・21 台湾人客急増の U S J

「ユニバーサル・スタジオ・ジャパン」（大阪市）によると、今年四～六月の外国人客は入場者の九％に当たる約十七万人と急増中で、台湾人が最多の約五万人という。

7・24 台湾製部品の調達額が増加

フジサンケイビジネスアィの報道によると、昨年、日本企業が台湾から製品や部品を調達した額は、前年比三〇％増の約一兆三百億円。増加率では国別で日本がトップ。IT分野での調達が急増した。

7・25 日台が「日本米」販売競争

日本米の最大の輸出先である台湾。毎日新

聞によると、活潑化する日本側の売込みに対抗し、宜蘭県の農家が現地作付けの魚沼産コシヒカリの低価格販売を開始した。

7・26 「日台VS中国」のシナリオか

許世楷駐日代表が、尖閣諸島が「どこの国の領土か簡単には言えない」と言明した問題で沖縄タイムスタ刊は、急進独立派の李登輝氏に近い同代表には、尖閣主権を放棄して「日本VS中台」の対立構図を「日台VS中国」に変えるシナリオがあるとの分析を行った。

7・27 被災者激励の歌声がCDに

阪神・淡路大震災で避難所の被災者を歌で励ました神戸市在住の台湾人歌手、李浩麗さんの初CD「華心」が発売。被災地で歌った日本や台湾の歌も収録。

7・30 台北で福岡の味をアピール

福岡県の食品輸出振興協議会が台北市内で商談会。県産の米、野菜、果実、茶、菓子、ラーメンなど百五十品目を展示し、高所得者層が多い同市に品質の高さをアピールした。

7・30 陸自総監部にメディア代表团

台湾のメディア代表团が陸上自衛隊東部方面総監部を視察。台湾安保協合理事長を務める黄昭堂・総統府国策顧問が引率した。

7・30 「陳総統は明治天皇に学べ」

台湾で潜水艦購入などの特別軍事予算案が親中派野党の反対を受ける中、ネットサイト「南方快報」は論説「陳総統は明治天皇に学べ」を掲載。日清戦争前に明治天皇が内帑金を下賜し、官吏も棒給の一部を寄付して軍艦建造費に充てたことに倣い、「潜水艦購入愛国基金」を提言。与党議員は賛同するはずと。

7・31 台湾の防衛は日本の防衛

「日米同盟と台湾海峡両岸問題」をテーマに日台米協力シンポジウムが都内で。パネリストの外交評論家、加瀬英明氏は「台湾の防衛は日本の防衛」と強調。

7・31 中国をいかに弱めるかが課題

河北新報は論説で、中国の台湾への圧力は米軍再編の動きをにらんだ軍事的な布石であり、日本はそれをどう弱めていくか真剣に考えなければならぬとの主張を展開。

8・2 不発弾処理の元日本兵に感謝

戦時中、現・新竹県湖口郷で不発弾処理に従事した元軍人の西本武賢氏（80）が六十年ぶりに同地を訪問し、生死を共にした元部下の台湾人と涙の再会。現地役場は「千人以上の住民の命を守った」と西本氏に感謝を表明。

8・6 産経が高砂族英霊を守る募金

大東亜戦争での高砂族英霊を祀る台北県烏来郷の慰霊碑が、資金難で存続の危機。これを受け産経新聞は支援募金を開始した。

8・6 「企業再建の神」が台湾訪問

福岡ダイエーホークスの高塚猛オーナー代行が、著書の出版記念会や講演のため訪台。数々の赤字企業を黒字化した高塚氏は、台湾でも「経営の神」「企業再建の神」として注目されている。

8・6～8 仙台で台南七夕フェア

台南市は仙台市内で「台南七夕交流フェア」を開催し、伝統芸能や芸術品を紹介。許添財市長以下、約二百人も市民も派遣。

8・7～10 日本入国の事前審査を試行

観光等で訪日する台湾人の入国手続きの円滑化や国際テロ防止のため、日本の入国審査官が台北国際空港で旅券や査証の事前審査を試行。効果があれば来年以降本格実施の見通し。

8・8 温泉宿が日本化に挑戦

聯合報の報道によると、苗栗県山間の泰安温泉にある錦水ホテルが「日本化」に挑戦。日本の高級ホテル並みのサービスを導入し、客家料理での懐石料理も開発した。

8・9 流出した日本時代の橋が復元へ

七月に橋面が洪水で流出した糯米橋の復元を南投県が決定。行政院も全面協力。約八十年前に日本人が北港溪に架けた長さ五三mの石橋で、度重なる水害にも耐える頑強さだった。芸術性にも富み、古跡に指定されている。

8・9 陳總統が中国の反日騒動を批判

陳水扁總統は訪台した民主党議員団と会見し、サッカー・アジア杯での日本の優勝に祝意を表するとともに、決勝戦後の中国人の反日騒動を「民主主義とスポーツマンシップに欠ける」と痛烈に非難した。台湾各紙もこの騒動を大々的に批判している。

8・10 中国の反日で李前總統が警告

李登輝前總統は民主党議員団との会見で中国の反日ムードに触れ、「日本政府が低姿勢なら、中国は更に威圧的になる」と警告した。

8・10 台湾花火が宇治川に登場

京都府宇治市の「宇治川花火大会」で、昨年のマカオ国際花火大会で優勝した台湾メーカの花火が登場。

8・11 石原都知事に「皆が驚く計画」

石原慎太郎都知事は許世楷駐日代表と会見。台湾の観光業発展に協力する意向を示

し、「皆が驚く具体的計画がある」と述べた。

8・12 日本の人気漫画家にファン殺到

台北市内で漫画博覧会が開幕。最大の目玉は水上航氏、高屋奈月氏ら日本の人気漫画家の多数参加。熱狂的ファンが殺到した。

8・12 台湾兒童が記念公園を完成

台北市の薇閣小の兒童約百三十人が、滋賀県志賀町のびわ湖バレイで第三回日台交流キャンプ。記念に薇閣公園を完成させた。

8・13 大阪は文化的に台湾に近い

日本各地で台湾の現状を訴え続ける許世楷駐日代表。訪問先の大阪では「大阪の人は活気がある。文化的に台湾に近い」と賞賛。

8・15 「靖国参拝」で台湾は冷静

「アジア各国を激怒させるだろう」(ロイター)とも報じられた閣僚や国会議員による終戦記念日での靖国神社参拝だが、台湾メディアは至って冷静。中央通信社は中国政府の反応のみを伝え、自由時報も「来年は天皇陛下にご参拝いただきたい」との石原都知事の発言などを、コメント抜きで淡々と報道。

8・15 台南の七夕になまはげ登場

台南市で七夕国際芸術祭が始まり、日本からもなまはげ太鼓伝承会などの団体が参加。

8・16 日台協力の国家最重要建設

陳水扁總統が台湾高速鉄道の操車場を視察。日本製車両にも初試乗し「高速鉄道は台日協力する国家最重要建設だ」と述べた。

8・17 桜並木の復元に二十五

交通部は、埔里―霧社間の道路で二十五年間、三千株以上の桜を植え続けた王海清氏(85)を表彰。日本時代に林業試験所にいた王氏は、当時の桜並木の消滅を惜しんでいた。

8・25 行政院長に入国ビザ発給

游錫堃^{ゆうせきくぶん}行政院長(首相)を乗せた航空機が台風の影響で那覇空港に着陸。游院長は異例の入国ビザを受け、空港内に六時間滞在。沖縄県副知事と会見し、安倍晋三自民党幹事長ら政界要人も電話会談。台湾首脳を入国させた日本政府に、中国は苛立ちを表明。

8・25 中国を無視して議員団が訪台

自民党の国会、地方議員など約九十名が研修のため訪台。中国は外務省にも妨害の圧力を掛けてきたが、それを無視した格好だ。

8・25 台湾の高校生が準優勝

毎日新聞社主催の第十二回国際高校生選抜書道大会で、高雄県の陳聖鏗君が準優勝。

【永山英樹】